

ナカログ

Autumn
2011
Vol.32



2
P

講座・イベントリポート

夏休み子ども企画 “熊峰先生と漢字であそびま ^{しょ}書 ”

3
4
5
P

が ら が ら
学・楽・学・楽ぽんっ！活動の達人にインタビュー

高田 昭壽さん 道志水源林の整備のボランティアなどで活動

渡辺 宣明さん 胃がん患者の集まりの会で活躍

6
7
P

なか区民活動センター登録団体のご紹介

絵手紙 「木の花会」

環境に取り組む 「特定非営利活動法人 地球の木」

社会貢献型 ICT 「NPO 法人 オープンソースソフトウェア・シティ」

なかく街の先生の紹介



是非
ご利用
ください。

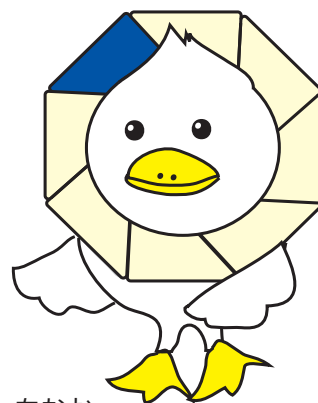
腹がへっちゃ…” 会議・打合せは出来ぬ ”…?



なか区民活動センターでは
ミーティングエリアや研修室への
飲食物のお持込みは OK です♪

NPO・活動団体さんのミーティングや
交流会などにおススメです♪

～ゴミは必ず、お持帰り頂いております～



もなか
なか区民活動センターのマスコット

夏休み子ども企画

熊峰先生と漢字であそびま書

講師：中国人書家・熊峰先生

開催日時：2011年7月28日（木）14:00～15:30

会場：なか区民活動センター 研修室

今年の夏休み子ども企画は中区で活動する中国人書家である熊峰先生を講師に招き、「書」のもつ楽しさを通じて国籍の異なる子どもどうしが交流するワークショップ形式の講座を行いました。講座は漢字文化・漢字の成り立ちなどの講義から始まり、日本の「書道」と中国の「書法」を融合させた芸術性の高い漢字を、子どもたちがそれぞれ一文字選んで実際に書き、自由研究の成果として持ち帰りました。講座を通して、参加した子どもたちとその保護者は、日常的に使用している漢字を別の角度から見ることで、外国との垣根を越えてつながる「文化」や「多様性」に気付くきっかけになりました。

(1) 漢字の成り立ちのお話に子どもたちが釘付け。



(2) 次に象形文字・篆書・隸書・楷書・行書・草書6つの書体の説明の後、名前の一文字を6つの書体で書いてみました。まずは先生のお手本。熊峰先生の流れるような筆運びを目の当たりにして、子どもたちも真剣に書き始めました。



(3) 先生とスタッフの指導を受けながら繰り返し練習をし、最後に色紙に好きな一文字を好きな書体で書いて、持ち帰りました。大満足でした。



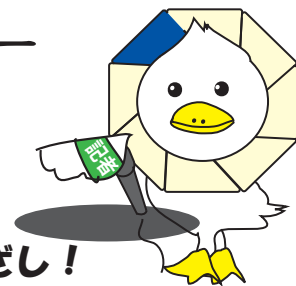
(報告 中村)

活動の達人にインタビュー

ひ孫に美味しい水を！

100年先を

見据えた真剣なまなざし！



岩手県の山間で生まれ育ち、中学生の頃には枝落ちなど山の手入れを生活のど真中で実践してきた高田昭壽さん（NPO 法人道志水源林ボランティアの会所属）からボランティア活動についてインタビューしました。

Q：高田さんにとってボランティアとは何ですか？

A：ボランティアとは、自分も喜び、相手（家族や地域の人々）も喜ぶことかな。単なる趣味ってわけでもないね。社会に貢献すること。それでいて自分がやりたいと思えることだね。孫が、おじいちゃんすごいねえ～って間伐したヒノキでこしらえた携帯電話置きを見て喜ぶんだよ。

Q：40年間“山”を見てこなかった高田さんを再び山に向かわせたこととは？

A：ひ孫の代に美味しい水の源、水源林を残したいと思い活動を始めたんだよ。定年退職前57歳の時に、横浜市水道局が募集していた水源林を保全するボランティアに参加し、再び山と向き合うようになったんだ。

Q：はじめて一緒に活動を共にしようとする仲間にはどの様なことを気づかっていますか？

A：感動を共に分かち合う。共感することだよ。真っ暗な森の中…、切り倒された一本の木がドーンと辺りに大きな音を響き渡らしたかと思うと、スーッと一筋の光が森を射すんだ。初めて参加するメンバーには感動し

て俺に握手まで求めてくる人もいるだよ。また一緒に気持ちの良い汗をかきたいと思ってもらえるように取り組んでいるんだ。

Q：活動のキッカケは様々…まとまりのよい活動現場を切り盛りするには？

A：活動現場では腕は良いけれどもチームの方針を聞かないメンバーや我が強くやりたいことを主張するメンバーもいる。メンバーがケガをすることがないようにチームリーダーには従ってもらっている。

ひ孫の代に美味しい水を残したい！！

100年先を見据えた高田さんの眼光は真剣でした。

高田さんは活動に対して常に主体的です。活動の現場では間伐材置場の整備など自ら考え、行動し汗をかきます。

今年のなか区民活動センター祭りでは積極的に呼び込みをされていました。他の出展団体にもお声掛けをして、つながろうとしていらっしかったです。

ボランティアの主体性を全身で表現されている、情熱あふれる活動の達人でした。

（インタビュー 内多）



ます。さらに、生活全般について、食事などを始め術後どのように展開しているかという事例発表も行っています。医師からの助言もさることながら、共有する仲間同志の話は大きな支えになります。

また、今後の予定では、市大病院の外科部長 利野 靖先生の御厚意による講演会も開催し、勉強を重ねていこうと思います。この会は横浜会という名称が付いていますが、それは立ち上げ地が横浜だったためで、会員を横浜市内に限定することはなく、入会希望があればどなたでも受け入れ、苦楽をともにしていこうと思っています。

Q：活動を続ける中で特に難しいことな
どありますか？

A：会員は一時的に元気になると会を欠席するようになり、体調が思わしくないとまた出席する傾向がありますが、それでいいと私は
思っています。こういった形の継続が大事だ
と思っています。

また、術後の後遺症にどんな悩みを抱え対処しているのか、自宅療養の実態を知って貰うための貴重な情報として、医師に提供出来たらと考えています。今後は、そういった情報提供もこの会の方向性として考えています。

会員の増加を望んでいるのですが、病院では個人情報保護の観点から困難であり、プライベートな問題ということもあり募集が容易にいかないのが現状です。

あとは、会を開催する場所の確保にも苦慮
しています。

Q：アルファ・クラブ横浜会以外にも何か活動
されていますか？

A：北方小学校の登校児童の見送りをしています。小学校から神奈川近代文学館の間の道で1時間の見送りを7年間続けています。かつて、この付近に不審者がいたことがあり、そのため児童たちはトンネル方面の道を迂回して登校した経緯があったのです。

そういえば自分の子供が通学していた頃、近所の高橋さんというお姉さん（ミドリのお姉さん）が献身的に見送りをしてくれたことを思い出しました。それならばと思い立った訳です。校長先生をはじめ親御さん達から感謝されております。

Q：再びアルファ・クラブ横浜会についてで
すが、今後の展望などはいかがでしょう
か？

A：胃がん切除後の後遺症に悩む人達に、いかにこの会がある事を認知していただくか、これから活動を続けていく上で引き続き取り組みたい
と思います。

苦しみは二人で分かち合えば半分になります。

(インタビュー 牧野)



木の花会

登録 No. なか -073B 代表/坂本 徳代

自由にのびやかに楽しく作ります

木の花会は、絵手紙を制作する活動をしています。12年前に横浜市が主催する生涯学習の一つとして山手西洋館の教室から始まり、現在はなか区民活動センターを利用しています。

先生には自由に伸びやかに、個々の個性を尊重して頂き、失敗作も「失敗は発見の扉」と手を入れて頂き、見違える作品に仕上がります。墨の筆は勿論、ペン書き、爪楊枝、割り箸でも描きます。描き方の技法としては墨流し、超割り箸法、薄墨デッサンなどオリジナルがあります。題材は季節の草花、果物、おひなさまなどです。時には新種の珍しい花等を題材にし、その名前を記憶するのも頭の体操かと思えます。年賀状作り、飛び出す絵のカード、クリアホルダーを使用した小さなバッグにも入る「ミニうちわ」も作成しました。先生のアイディアでいろいろな趣向を凝らし、毎回新しいことへの挑戦です。次は何を教えて頂けるか楽しみな会です。また、ボランティアとして、特別養護老人ホームで塗り絵指導をしています。



特定非営利活動法人 地球の木

登録 No. なか -012C 代表/丸谷 士都子

困難な状況にある人たちの生活向上を支援

地球の木は、1991年、生活クラブ生協神奈川の組合員・職員の有志が中心となり、アフリカ・エチオピアなどの飢饉に対して「一食カンパ運動」として毎月500円の募金活動を行ったことがきっかけで設立されました。1999年、社会的認知をより高め、活動の充実を図ろうと「特定非営利活動法人 地球の木」となりました。2010年には、税の優遇措置が受けられる「認定NPO法人」認証を取得しています。

現在、アジアでカンボジア・ラオス・ネパールの3カ国で、困難な状況にある人たちの生活が向上し、安心して暮らすことができるように、支援を行っています。また、支援地の人たちの生活を支えるフェアトレード品を販売したり、報告会や学習会、地球市民教育講座などを開催し、支援地の人たちの暮らしや文化、支援地の人たちが抱えている貧困・環境・人権問題と日本とのかわりなどを地域や学校に伝え、モノにあふれた日本の私たちの暮らしを考えます。

NPO 法人 オープンソースソフトウェア・シティ

登録 No. なか -051B 代表/澤田 要 E-mail : info@oss-city.or.jp

URL : <http://oss-city.or.jp/>

オープンソースソフトウェアで社会貢献

我々は環境・教育・雇用の3つの観点で社会的役割を担おうと考え、その手段としてオープンソースソフトウェア(OSS*)に着目しました。

我々の志と相通じるものとしてOSSに可能性を感じ、①ハード上は動作している年1千万台近くの廃棄PCを再生・利用する②高価な商用オフィス系ソフトに代わってOpenOfficeなどのOSSを広める③障がいを持たれた方々など社会的弱者のための就労につながる実践的な職業訓練の場を提供する等の事業を立ち上げつつあります。

行政だけで全ての社会的な課題を解決したり公共サービスを提供することは難しく、故に「新たな公共の担い手」が求められています。

そこで我々は志の実現に向け、NPOという形態をとりました。利潤追求は目的ではありませんが、経営面で自立し、持続的に、そして高い志と他にない発想と創造力を発揮して、個人・団体・企業と積極的な協働を図ることにより、納税するだけでなくNPO活動を通じて社会の発展に貢献いたします。

不十分ながらもこれまで培ってきた知見があり、良いことも、それに倍して辛い経験を積みました。助け、助けられた人脈や志があります。

私共の志や活動に関心を持たれた方は、是非ご連絡ください。

*OSSとはソフトウェアの設計図(ソースコード)を、インターネットなどを通じて無償で公開し、誰でも改良、再配布が行えるソフトウェア。

最近登録した「なかく街の先生」のご紹介！

ご自身の経験を生かして地域で教える方々を登録するシステムです。

登録をご希望の方、利用をご希望の方は、なか区民活動センターへお問い合わせください。

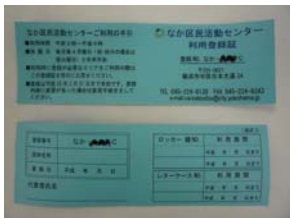
分野	芸術・文化・趣味	芸術・文化・趣味
登録番号	A-50	A-51
ジャンル	色彩コーディネート全般	声楽
氏名	後藤博文	林 ケイ
先生からの一言	色の世界はとても広いです。「きれいな色の組み合わせってなんだろう？」という美術的な話から「色の見える仕組みってどうなっているの？」という科学的話まで。ひとつひとつを話し合いながら進めていけたらと思っています。	歌を通し音楽の楽しみ、喜びを知っていただきながら仲間作りや元気に充実の時間を過ごしましょう！さらに声楽としてのテクニックを身に付けオペラなども歌いたい方の為には学会で発表された歌い方なども指導しながらより向上を目指します。

センターからのお知らせ

● なか区民活動センター 年末年始休暇

2011年						2012年				
12月						1月				
26日(月)	27日(火)	28日(水)	29日(木)	30日(金)	31日(土)	1日(日)	2日(月)	3日(火)	4日(水)	
休館日	開館日	年末年始の休館日となります						開館日		

● なか区民活動センター登録団体の皆様へ 団体登録証の携帯をお願いします



なか区民活動センター窓口で研修室の予約をされる際、またロッカーの鍵をご利用になる際、こちらから団体登録証の提示をお願いすることがあります。団体登録証は各団体1枚ずつしかありませんので、どうぞ登録証の表・裏面をコピーしていただき、予約作業をされる方は登録証もしくはコピーを手に、窓口にお越しくださいますようお願いいたします。

なか区民活動センター 施設利用のご案内

中区民や横浜市民の自主的な活動（市民活動・生涯学習・地域活動など）をサポートする施設です。

✿ 開館時間

午前9時～午後9時

✿ 休館日

毎月第4月曜日
(祝・休日の場合は翌火曜日)
年末年始

✿ 施設の利用について

中区民・横浜市民の自主的な活動（市民活動・生涯学習・ボランティア活動・地域活動などの公益的な活動）にご利用いただけます。研修室や一部の設備の利用には団体登録が必要です。

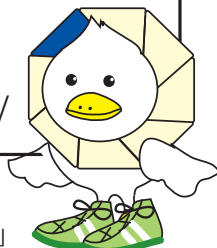
✿ 利用登録

研修室・ミーティングエリア・印刷室の予約、貸ロッカー・レターケース、貸出機材を利用する場合は利用登録が必要です。登録申請にはセンタースタッフとのヒアリングや審査があり、少々お時間をいただきます。



「ナカログ」はバックナンバーも含めて、なか区民活動センターのホームページでもご覧いただくことができます。

なか区民活動センター ホームページ
<http://www.city.yokohama.lg.jp/naka/ncac/>



なか区民活動センターマスコット「もなか」

みなとみらい線 日本大通り駅



「なか区民活動センター情報誌・ナカログ」編集・発行／なか区民活動センター編集室

問合せ／なか区民活動センター（中区地域振興課） TEL 045-224-8138 FAX 045-224-8343

〒231-0021 横浜市中区日本大通 34

E-mail : na-katsudou@city.yokohama.jp